

# Asia Indicators

発表日: 2025 年 10 月 10 日(金)

## 台湾・9月輸出に「駆け込み」一服が顕在化 (Asia Weekly(10/6~10/10))

～台湾・9月インフレ率は一段と鈍化して4年半ぶりの低水準、幅広くインフレ圧力が後退する動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/6(月)	(タイ)9月消費者物価(前年比)	▲0.72%	▲0.60%	▲0.75%
10/7(火)	(フィリピン)9月消費者物価(前年比)	+1.7%	+2.0%	+1.5%
10/8(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.50%	3.00%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.25%	1.50%
	(台湾)9月消費者物価(前年比)	+1.25%	+1.62%	+1.60%
10/9(木)	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	4.75%	5.00%	5.00%
	(台湾)9月輸出(前年比)	+33.8%	+35.5%	+34.1%
	9月輸入(前年比)	+25.1%	+22.5%	+29.5%
10/10(金)	(マレーシア)8月鉱工業生産(前年比)	+4.9%	+3.4%	4.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

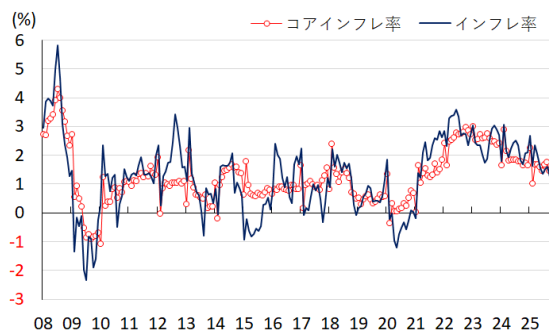
### 【台湾】～トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みが一巡も、先行きの輸出の底堅さを見据えた動きも～

8日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.25%となり、前月(同+1.60%)から鈍化して2021年3月以来の低い伸びとなっている。前月比も▲0.23%と前月(同+0.46%)から4ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格が落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、生鮮食料品やエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.46%となり、前月(同+1.75%)から鈍化して7ヶ月ぶりの伸びに鈍化している。前月比も▲0.13%と前月(同▲0.11%)から2ヶ月連続で下落しており、エネルギー価格の下落により輸送コストが下振れしていることを受けて幅広く財価格に下押し圧力が掛かるとともに、サービス物価も下落基調が続くなど幅広くインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

9日に発表された9月の輸出額は前年同月比+33.8%となり、前月(同+34.1%)から伸びが鈍化している。前月比も▲5.7%と前月(同+4.3%)から7ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れが続いた流れに一服感が出ている。トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの動きが一巡したことが影響した可能性がある。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けに底堅さがうかがえるとともに、欧州向けは堅調な動きをみせる一方、米国向けの大幅な減少が輸出全体の足を引っ張る動きが確認されている。財別でも、堅調な動きをみせてきた主力の輸出財である半導体など電子部品関連で底入れの動きに一服感が出るとともに、化学製品関連や金属製品関連など幅広い財で下振れする動きがみられる。

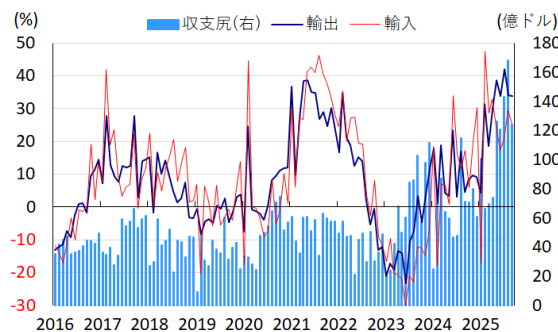
一方の輸入額は前年同月比+25.1%となり、前月（同+29.5%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+1.6%と前月（+1.2%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。輸出の底入れの動きに一服感が出ているものの、機械製品関連のほか、素材、部材関連の輸入に底堅い動きがみられるなど、先行きの輸出の底入れを見据えている様子が見えがえる。結果、貿易収支は+123.97億ドルと前月（+168.29億ドル）から黒字幅が縮小している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移

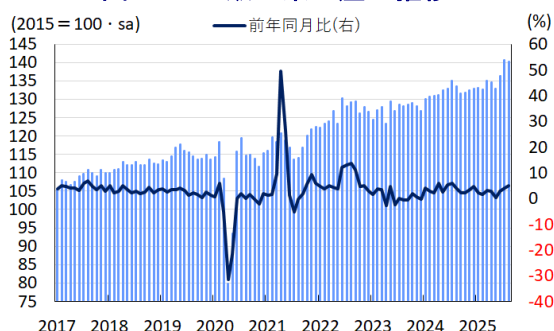


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門の生産は堅調も、製造業で「駆け込み」の後を見据えた動きが顕在化する兆し～

10日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+4.9%となり、前月（同+4.2%）から伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.33%と前月（同+3.09%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。分野別では、原油や天然ガスなど鉱業部門の生産は活況を呈する動きをみせる一方、製造業の生産は対照的に鈍化しているほか、経済活動の動向を反映する発電量も下振れしており、幅広く経済活動が低迷している様子が見えがえる。製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は堅調に推移しているほか、金属関連の生産にも底堅さがうかがえる一方、自動車をはじめとする輸送用機械関連の生産が下振れしているほか、化学製品関連の生産も弱含む動きをみせており、分野ごとのバラつきが強まっている。トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みの動きが生産活動の下支え役となっている可能性があるものの、足元の生産活動をみるとその後の鈍化を見据えた動きが顕在化しつつある様子が見えがえる。

図3 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。